



カタツムリにはどうして殻があるの

カタツムリはカイの仲間

カタツムリは、海にすむカイなどと同じ仲間です。カイは、やわらかいふにやふにやした体でも、かたいじょうぶな殻に守られて生きています。カタツムリは、人間のようないじょうぶな皮ふをもっていません。ですから、もし、殻がなかったら、うすい皮からすぐ水分が風でとばされ、体がかわいて死んでしまうでしょう。

殻は、カタツムリの家

カタツムリは、つくとすぐ、殻の中に体を引っこめてぼろりと地面に落ちてしまい、もう人間は手が出せません。カタツムリは、動きがおそいので、殻がなかったら、すぐ、鳥やほかの動物などにおそわれたり、食べられたりしてしまうことでしょう。

カタツムリは、夏の暑いさかりや、寒い冬には、殻の入り口にうすい膜をはって、殻の中でじっとしています。こうして、外の乾燥や寒さから身を守っているのです。

このように、殻は、カタツムリが生きていくのに、なくてはならないものなのです。カタツムリの殻が一部こわれたりすると、人間の骨やつめなどと同じように、いつの間にか、殻は修理されています。

カタツムリは、卵から生まれたばかりの小さい赤ちゃんカタツムリでも、ちゃんと殻をもっています。（監修・今泉 忠明）

